水土里ネット みやぎ

土地改良広報

2023
1
No.630

１月号表紙写真

写真提供：宮城県観光プロモーション推進室
作品名：『どんと祭』
撮影地：宮城県仙台市

Contents

- 理事会、監事会、臨時総会を開催しました
- 農業農村整備の集いが開催されました
- 宮城県土地改良大会を開催しました
- 第 44 回全国土地改良大会沖縄大会が開催されました
- 各種研修会を開催しました

土地改良区めぐり

シリーズ 40　～登米市東和町土地改良区

宮城県土地改良事業団体連合会

1 月 号 目 次

－NO.630－

トピックス

P3　新春挨拶
P10　謹んで新年のご挨拶を申し上げます
P11　令和４年度　理事会を開催しました
P12　令和４年度　定期監査及び監事会を開催しました
P13　令和４年度　第１回臨時総会を開催しました
P14　「農業農村整備の集い」が開催されました
P15　農業農村整備関係予算の確保に関する要請活動が実施されました
P16　令和４年度　宮城県土地改良大会を開催しました
P19　第44回全国土地改良大会沖縄大会が開催されました
P20　令和４年度　水土里ネットみやぎ各支部各種研修会が開催されました
P22　令和４年度　宮城県中山間地域活性化推進協議会担当者研修会を開催しました
P22　令和４年度　若手職員研修会を開催しました
P23　令和４年度　換地計画実務研修会を開催しました
P23　令和４年度　農業水利施設ストックマネジメント研修会を開催しました
P24　令和４年度　土地改良区職員研修会を開催しました
P24　令和４年度　土地改良区役員研修会を開催しました
P25　土地改良団体における男女共同参画推進研修会を開催しました
P26　令和４年度　インターンシップ事業を実施しました

土地改良区めぐり

P27　土地改良区めぐりシリーズ40　登米市東和町土地改良区

おしらせ

P28　令和４年　秋の叙勲、文化の日表彰
P29　連合会日誌（８月～12月）
P29　今後の行事予定（１月～３月）
P30　宮城県ため池サポートセンターについて

土地改良歴史資料室について

土地改良事業では多くの技術図書が作成されており、農業農村整備における技術の変遷や地域の特徴などが記載された貴重な文献です。

水土里ネットみやぎでは土地改良事業に関する図書や資料を集めて集中管理をしています。広く県民の方々に土地改良事業の認識を深めていただく事を目的として、土地改良歴史資料室をご利用ください。

【URL】　http://www.mlw.or.jp/news/8089/

新年のご挨拶

宮城県土地改良事業団体連合会
（水土里（みどり）ネットみやぎ）
会長　伊藤康志

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、水土里ネットみやぎの業務運営にご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

また、昨年７月の県北部を中心とした豪雨災害により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。水土里ネットみやぎでは、被災直後より事業主体の要請を受け、被害を受けた農地、農業用施設について、関係機関等と連携を図りながら、早期復旧の支援に職員一丸となって全力で取り組んでいるところであります。

昨年は、ロシアのウクライナ侵攻に端を発した世界情勢の変化による資源価格の高騰や円安などの影響により、資源や食料を輸入に頼る日本では、急激な物価高が我々の生活を直撃した一年でありました。特に、電気料金などエネルギー価格の高騰は、農業水利施設等を管理する土地改良区の安定運営にも大きな影響を及ぼしているところです。国や県、市町村においては、令和４年度の電気料金高騰に対する土地改良区支援事業を導入していただいたところですが、混迷する世界情勢は先行き不透明であり、水土里ネットみやぎといたしましても、エネルギー価格等の動向を注視しながら、引き続き必要な支援を求めていく所存であります。

また、農村地域では、農業従事者の高齢化・減少等により、農地・農業水利施設の管理が困難になるなど、様々な影響をもたらすことが危惧されております。農業を次世代の担い手にとって魅力ある産業としていくためには、農地の集積・集約化、大区画化・汎用化等の農地整備、スマート農業の展開に向けた基盤整備、農業水利施設等の維持・更新を適時適切に行い、担い手に引き継いでいくことが極めて重要であります。

加えて、大規模地震や豪雨災害の頻発化・激甚化が懸念されており、国民の生命と財産を守るためにも、ため池等の耐震化や農地・農業水利施設を活用した「流域治水」に取り組むなど、農村地域の防災・減災対策の推進を通じた国土の強靱化も極めて重要な課題となっております。

さらに、第５次男女共同参画基本計画及び土地改良長期計画においては、令和７年度までに土地改良区の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、土地改良団体における喫緊の課題となっております。農業の持続的な発展と農村の振興に向け、地域に根差した活動を展開する土地改良区としては、女性理事登用による多様な視点から組織の活性化が求められているところです。新たな時代にふさわしい土地改良団体の創造に向けて、皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

令和５年度農業農村整備事業関係予算については、農業関係者等からの農業農村整備の着実な推進を求める強い要請と熱意を受け止めていただき、令和４年度補正予算と令和５年度当初予算を合わせて6,134億円の概算決定となりました。今後も現場のニーズに適切に応えられるよう、安定的・計画的な事業推進に向けて、引き続き、強力に現場からの声を届けていく所存であります。

我々、水土里ネットみやぎは、様々な課題の解決と人間の存続に欠かすことのできない「水・土・里」を未来に継承していく使命のもと、力強い農業農村の実現に向けて積極的に取り組んでまいりますので、関係する皆様方のなお一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この一年が皆様にとりまして平穏な佳き年となりますよう、ご健勝とご発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

元気で躍動する宮城を目指して

宮城県知事　村　井　嘉　浩

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるに当たり、県民の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。また、昨年７月に発生した大雨により、人命への被害こそ避けられたものの、県北部を中心に大規模な冠水等による甚大な被害が生じました。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

今回の災害で被害に見舞われた農地・農業用施設の復旧に当たりましては、宮城県土地改良事業団体連合会及び各土地改良区の役職員の皆様をはじめ、関係する皆様に全力で取り組んでいただいておりますことに感謝申し上げます。県では、引き続き頻発化する豪雨や地震といった自然災害に対する農村地域の防災・減災に必要な対策を講じ、災害に強い県土づくりを目指してまいりますので、皆様の御理解を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は、宮城県制150周年の節目の年でありました。宮城県制150周年記念事業として、様々な観光キャンペーンや催しを実施し、本県の歴史や伝統、文化を県内外に発信するとともに、郷土への更なる愛着を醸成し、魅力あふれる地域づくりの契機となるよう取り組んでまいりました。

さて、社会情勢がめまぐるしく変化する中で、県政は今、様々な行政課題に直面しています。特に、長期化するコロナ禍とエネルギー価格高騰は、地域経済と生産者の皆様の経営に大きな影響を及ぼしており、依然として予断を許さない状況にありますが、経営の安定化に向けて電気・燃油価格高騰対策を実施するなど、柔軟な予算執行に務め、万全の対策を講じてまいりたいと考えております。

今年は「新・宮城の将来ビジョン」の３年目に当たり、本格的な人口減少局面を見据え、次の世代を育成・応援する施策を重点的に推進してまいります。農業分野においては、自然災害に対応した農村地域の防災・減災対策の推進、農地の大区画化や担い手への農地集積・集約化の推進、高収益作物への作付け転換などの取組により、農業の収益性向上と競争力強化に努めてまいります。また、令和４年９月に設置した「宮城県土地改良区運営基盤協議会」の活動計画である、男女共同参画の推進に向けた土地改良区における女性理事登用のための普及啓発に取り組んでまいります。土地改良区の皆様におかれましては、より一層の効率的な組織運営の体制強化を図るとともに、多面的な機能を有する農地・農業用施設の適切な管理を行うことにより、将来にわたって本県農業・農村の発展に大きく寄与されることを御期待申し上げます。

宮城県誕生から150年という長い歴史の中で、我々の生活の中には、先人達が積み重ねてきた志が息づいています。そのひとつとして、今年は、良食味米の東の横綱とも言われたササニシキが、本県の古川農業試験場で誕生して60年目の節目の年を迎えます。ササニシキをはじめ、米作りのための優良な生産基盤、農業用水、そして美しい農村環境の一層の活用を図り、豊かな宮城の農業・農村を維持することを目指しています。それらの歩みを胸に、宮城の力を成長させ、県民が活躍できる機会と地域の魅力にあふれ、元気で躍動する宮城を目指して取り組んでまいりますので、今後とも御理解と御協力をお願い申し上げます。

みやぎの農業の持続的な発展に向けて

宮城県議会議長　菊　地　恵　一

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、日頃より宮城県議会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、昨年３月の福島県沖を震源とする地震及び７月の県北部を中心とした記録的な豪雨等により、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

さて、昨年は、第104回全国高等学校野球選手権大会において仙台育英学園高等学校が宮城・東北の悲願であった全国制覇を成し遂げました。また、サッカーワールドカップでは、日本代表が激闘の末に強豪国を破り躍進するなど、チームが一丸となって戦う姿は我々に勇気と感動を与えてくれました。

一方で、ロシアのウクライナ侵攻による国際情勢の不安やそれに伴う燃料・資材等の価格高騰、地震や大雨などの甚大な自然災害の発生など、私たちの暮らしや経済活動に大きな影響を及ぼす出来事や社会情勢の変化も少なくありませんでした。

長引く新型コロナウイルス感染症の影響はいまだに大きく、我が県の産業やなりわいは大きな打撃を受けております。しかし、近年中止されていた行事・イベントの再開や、政府の全国旅行支援の実施など、ウィズコロナの中で社会経済活動の再開の動きが進んだ１年であったように思います。

昨年は、宮城県制150周年の記念すべき年でもありました。明治以降の近代化、戦災と復興、高度経済成長、そして、東日本大震災などの甚大な自然災害など、宮城県は幾多の苦難や社会情勢の変化に直面しながらも着実に前進を続け、東北の経済・文化の中心として発展を遂げてまいりました。この150年の歩みの中において、農業が宮城県の発展を支える重要な産業であることは言うまでもございません。改めまして150年の重みを実感しますとともに、これまでの先人の努力に敬意を表する次第です。

今後は、本格的な人口減少社会の到来により、食の市場規模の縮小や農業現場での人材不足、農村地域における地域コミュニティの衰退など、我が国の食料生産を支える農業生産基盤の維持が懸念されており、宮城県のみならず地方自治体の重要かつ喫緊の課題となっております。

本年は、「新・宮城の将来ビジョン」及び「第３期みやぎ食と農の県民条例基本計画」のスタートから３年目を迎えます。

我が県が持続的に発展していくためには、東日本大震災からの復旧・復興の完遂、新型コロナウイルス感染拡大防止対策と社会経済活動の両立に加えて、豊かなみやぎの食と農の未来を創っていくための基盤整備と集積・集約化による農地利用の高度化や、農業・農村の強靱化による地域防災力の強化などに重点的に取り組んでいく必要があります。

県議会としましても、活力ある農業・農村の実現と食糧供給力の強化に全力で取り組んでまいります。

結びに、本年が会員の皆様にとりまして素晴らしい一年となりますことを祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

食料安全保障強化に向けた農業農村整備事業の推進

東北農政局長　坂　本　　修

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

平素より、農業生産基盤の強化に向けた農業農村整備事業の推進につきまして、多大なる御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、昨年東北管内では、3月に福島県沖地震、7月、8月には広い地域で豪雨災害にも見舞われました。被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。東北農政局といたしましても、引き続き早期の営農再開が図られるよう各県等と連携して取り組んでまいります。また、東日本大震災から12年が経過しようとしておりますが、地震・津波被災地では、ほ場の大区画化や担い手への農地集積が進められ、大規模で労働生産性の高い農業経営が力強く進められています。一方、福島県の原子力被災12市町村では、営農再開面積が4割程度にとどまるなど、原発事故により避難を強いられた地域での農業の復興・創生の取組は道半ばです。引き続き、関係機関と連携し、地域の合意形成の状況に応じて段階的にほ場の大区画化を推進するなど、農業者が早期に営農を再開し、持続的に発展できるよう後押ししてまいります。

さて、農林水産省では、令和3年3月に閣議決定された土地改良長期計画を踏まえ、「人口減少下で持続的に発展する農業」と「多様な人が住み続けられる農村」を目指し、農地の大区画化や水田の汎用化、スマート農業の実装、老朽化した農業水利施設の更新・長寿命化等を進めることとし、さらに近年の豪雨災害の激甚化や大地震の発生に備える対策を進めていくこととしています。

東北管内では、基幹的農業水利施設の約半数は標準耐用年数を超過しており、その機能向上や長寿命化対策として国営土地改良事業等を実施してまいります。また、決壊した場合に下流の住宅等へ被害を及ぼすおそれのある「防災重点ため池」が約5千か所存在しており、耐震化をはじめ老朽化や豪雨への対策が喫緊の課題となっていることから、ため池の防災・減災対策を計画的に推進してまいります。さらに、流域治水の一環として地域の排水能力の向上や「田んぼダム」の取組等を進め、国土強靱化に貢献してまいります。

最近では、ウクライナ情勢などにより輸入小麦等食品原材料の価格高騰や供給の不安定化に直面するなど、我が国の食料安全保障のリスクが近年に例がないほど高まるとともに、世界的なエネルギー価格の高騰等の影響により、電気料金は過去最高水準で推移し揚排水ポンプなどの土地改良施設の維持管理に大きな影響を与えています。

こうした中で、農業農村整備事業においては、令和4年度第2次補正予算で認められた「食料安全保障」の予算を活用し、食料安全保障の強化に向けて、輸入依存度が高い小麦・大豆に加え、高収益作物等の生産拡大を図るため、水田の汎用化・畑地化や、電気料金高騰の影響を受けにくい農業水利施設の省エネルギー化等を推進することとしています。東北農政局といたしましては、本年におきましても現場主義を徹底し、地域の皆様の声を良くお聞きしながら、農業生産基盤の整備、農業水利施設の更新・長寿命化と農村地域の防災・減災対策を効果的に推進し、食料安全保障強化に向けた農業農村整備事業の推進に努めてまいります。

本年が皆様にとって良き一年となることを祈念するとともに、引き続き、皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。本年が皆様にとって良き一年となることをお祈りするとともに、引き続き、皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
（全国水土里（みどり）ネット）
会　長　二　階　俊　博

令和５年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、様々な感染対策を講じた上で、新型コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立を図るウイズコロナの方針が示されました。皆様におかれましては、「新しい生活様式」を日常生活に取り入れ、引き続き、感染拡大防止に十分ご留意いただきますようお願いいたします。

また、昨年は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響もあり、一部の国では穀物の輸出規制が実施されるなど、食料流通の機能不全や食料価格の高騰など食料安全保障をめぐる負の影響が国際社会に生じました。

国内では、農業者の高齢化や減少により、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、燃料価格の上昇に伴う農事用電力料金の急激な高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような国内外の情勢にかかわらず、食料安全保障の観点から、日本の食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。岸田内閣は、こうした状況を踏まえて「食料・農業・農村基本法」の見直しに着手しました。この検討の動きを注視しつつ、我々土地改良関係者は、農業・農村の喫緊の課題に積極的に取り組んでいく必要があります。

令和５年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,457億円を確保することができました。この結果、令和４年度の補正予算を含めると6,134億円となります。

また、令和４年度補正予算において燃料価格の上昇に伴う土地改良区の電気代高騰分の７割を支援する仕組みが導入されました。御尽力をいただいた当局をはじめ関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第５次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画においても令和７年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、我々土地改良団体における喫緊の重要課題となっています。将来の組織体制の強化・発展のためにも女性参画を進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

さて、私は本会の会長に就任以来「闘う土地改良」を掲げ、組織一体となって闘ってまいりました。昨年の参議院選挙においては、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員が見事に当選を果たされました。
宮崎雅夫参議院議員と共に「車の両輪」となって、全国を駆け回り、皆さんの声を聞き、土地改良予算の確保だけでなく、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声が国会に届くよう、二人の活動の支援をお願いいたします。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様各々の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げまして、私の新年の御挨拶といたします。

新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問

参議院議員　進 藤　金日子

新年、明けましておめでとうございます。宮城県土地改良事業団体連合会の皆様には、旧年中、大変お世話になりました。お陰様で先般の参議院議員選挙で再選を果たすことができました。二期目においても、引き続き現場主義、地域主義に徹して政策実現に努めてまいる覚悟です。本年も何卒宜しくお願い致します。

懸案の土地改良予算については、昨年12月に成立した令和４年度補正予算で1,677億円（TPP等対策：760億円、国土強靭化５か年加速化対策：817億円、食料安全保障対策：100億円）が措置され、また、令和５年度当初予算政府原案は昨年度より４億円増加の4,457億円で、補正予算と合わせて6,134億円となりました。これらには農業水利施設の電気料金高騰対策も盛り込まれ、本年度と同様に地域の要望に応えられる所要の予算が確保できたものと考えています。

さて、昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が続く中、２月のロシアのウクライナへの侵略により、エネルギー価格の上昇、穀物価格や飼料価格の上昇、肥料価格の高騰、円安の急激な進行による物価の上昇等があり、これらは国民生活に大きな影響を与えています。政府は、エネルギー価格や電気料金、肥料価格等の高騰対策を講じてきたところですが、これらを含め物価高は本年も続くと思われます。引き続き、物価動向を注視しながら必要な対策を講じることが重要であり、私も各種対策の実現に貢献してまいる覚悟です。

昨年７月の再選後、全国各地で講演等を行ってまいりました。そこで感じたのは、経済安全保障と食料安全保障に対する国民の意識の高まりです。昨年後半の円安の進行も踏まえ、各種生産拠点の国内回帰をはじめ国内での強靭なサプライチェーン再構築の緊急性を改めて認識しております。

また、昨年６月の参議院決算委員会で、私は政治信条である「食料安全保障」について岸田総理に対し質問しました。総理からは「食料の安定供給の確保は国家の国民に対する最も基本的な責務の一つ。新しい資本主義のビジョンの下、食料安全保障を強化するべく政府一体となって取り組んでいきたい」との答弁を頂きました。

私は、「食料供給力」（国内生産力、輸入力、備蓄）の中で弱体化している国内生産体制の強化が喫緊の課題で、まさに「食料自給力」の強化が不可欠であると訴えています。その最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、自給力の強化を図るには、農地と水の持つ機能を高める土地改良を中長期的な展望を持って推進していくことが重要です。このため、今後も予算を安定的に確保するとともに、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、目に見える成果を出していく必要があります。

本年も土地改良推進に対する貴連合会の皆様のご協力をお願い致しますとともに、皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げ、新年のご挨拶にさせていただきます。

新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問

参議院議員　宮　崎　雅　夫

輝かしい初春を迎え、宮城県土地改良事業団体連合会の会員各位ならびに関係の皆様方へ謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、農業農村整備事業の円滑な推進ならびに土地改良施設等の適切な管理や土地改良区の適正な運営にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、旧年中は、私の活動に対し多大なるご支援とご指導を賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。

さて、私が農林水産大臣政務官を勤めさせていただいた昨年８月までの約10ヶ月間、皆様方から多くのご支援をいただきありがとうございました。その際お受けした、たくさんのご要望等に対し、それぞれの地域の課題解決に向けて、進藤金日子議員や農水省の職員の皆さん等と共に一所懸命に対応させていただきました。これらご要請の事項を含め、昨年12月に成立した令和４年度第２次補正予算では、農林水産関係で総額8,206億円、このうち、農業農村整備事業関係については、1,677億円（食料安全保障強化対策100億円、総合的なTPP等関連対策760億円、防災・減災、国土強靭化817億円）が措置され、この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料金の高騰に対し、増嵩分の７割を支援する新たな制度も含まれています。また、令和５年度当初予算概算額として、前年を上回る4,457億円が計上され総額6,134億円となる見込みとなりましたが、これからの国会議論において、しっかりと確保できるよう努めてまいります。

さらに、昨今の国際情勢や長引くコロナ禍により、農業農村にも多くの影響が及んでいますが、とりわけ、カロリーベースで６割程度を輸入に頼る我が国の食料事情にあって、その安定供給を図る食料安全保障の確立に向けた取り組みが求められております。国内農産物の生産を支える農地や水利施設等の整備・維持という重要な役割を土地改良が担っており、人口減少傾向に対応するスマート農業の取組推進や農業従事者の確保、農村関係人口の拡大などを含めて、しっかりと推進していくことが重要です。

私も、卯年の今年は年男を迎えますので、「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を理念に初心に立ち返り、これまでにも増して現場主義に徹し、現場や地域の課題をしっかりお伺いして皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいる決意ですので、引き続きご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、宮城県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位と関係機関の益々のご発展と皆様のご健勝を心より祈念申しあげ私の新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

水土里（みどり）ネット みやぎ
（宮城県土地改良事業団体連合会）

会　長　伊藤　康志
（大崎市長）

副会長　佐藤　　稔
（仙台東土地改良区理事長）

副会長　菅原　勘一
（大崎土地改良区理事長）

専務理事　浅野　直明
（学識経験者）

理　事　渥美　　巖
（学識経験者）

理　事　伊藤　恵子
（学識経験者）

理　事　加納　厚志
（柴田町土地改良区理事長）

理　事　丹野　國義
（川崎町土地改良区理事長）

理　事　浅野　　元
（大和町長）

理　事　金野　　勤
（迫川上流土地改良区理事長）

理　事　鈴木　　博
（石巻市北方土地改良区理事長）

理　事　横山　　徹
（鳴瀬土地改良区理事長）

理　事　加藤　惣吉
（登米吉田土地改良区理事長）

総括監事　阿部　　公
（登米市豊里町土地改良区理事長）

監　事　齋藤　昌德
（美里東部土地改良区理事長）

監　事　日下　清一
（亘理土地改良区理事長）

外職員一同

令和４年度　理事会を開催しました

第２回理事会

８月10日（水）、第２回理事会を開催し、以下の６議案が上程され、慎重なる審議を行った結果、原案のとおり承認可決されました。

また、事務局からの報告事項として「今後の行事予定」、「会員団体代表者の就任」、「令和５年度農業農村整備事業の予算確保に向けた要請活動」、「令和４年度宮城県土地改良大会の開催」、「第44回全国土地改良大会沖縄大会」などについて報告し、第２回理事会を終了しました。

第２回理事会の様子

議案第１号　令和３年度事業報告の承認について
議案第２号　令和３年度一般会計収入支出決算の承認について
議案第３号　令和３年度財産目録の承認について
議案第４号　諸規程の一部改正について
議案第５号　令和４年度第１回臨時総会提出議案について
議案第６号　令和４年度第１回臨時総会の日時及び場所について

第３回理事会

９月２日（金）、第３回理事会を開催し、以下の１議案が上程され、慎重なる審議を行った結果、承認可決されました。現在欠員となっていた副会長に菅原勘一理事（大崎土地改良区理事長）が就任されました。

また、副会長の順位については、佐藤稔理事を順位第１位の副会長、菅原勘一理事を順位第２位の副会長とすることで承認可決され、第３回理事会を終了しました。

議案第１号　副会長の互選並びに順位について

第４回理事会

12月12日（月）、第４回理事会を開催し、以下の３議案が上程され、慎重なる審議を行った結果、原案のとおり承認可決されました。

また、事務局からの報告事項として「定期監査の結果報告」、「今後の行事予定」、「令和４年度宮城県土地改良大会及び第44回全国土地改良大会沖縄大会」、「令和５年度農業農村整備事業の予算確保に向けた要請活動」、「令和４年度各表彰者」、「土地改良団体における男女共同参画」、「電気料金の高騰対策」などについて報告し、第４回理事会を終了しました。

第４回理事会の様子

議案第１号　令和４年度一般会計収入支出補正予算の専決処分について
議案第２号　職員給与規程の一部改正について
議案第３号　職員の表彰について

令和４年度　定期監査及び監事会を開催しました

定期監査及び第３回監事会

11月４日（金）、令和４年度定期監査及び第３回監事会を開催しました。

定期監査では、令和４年度の受託事業執行状況及び上半期分の一般会計予算執行状況について監査し、監査結果を第４回理事会で報告することとなりました。

定期監査の監査項目及び第３回監事会に提出した議案は以下のとおりです。

定期監査

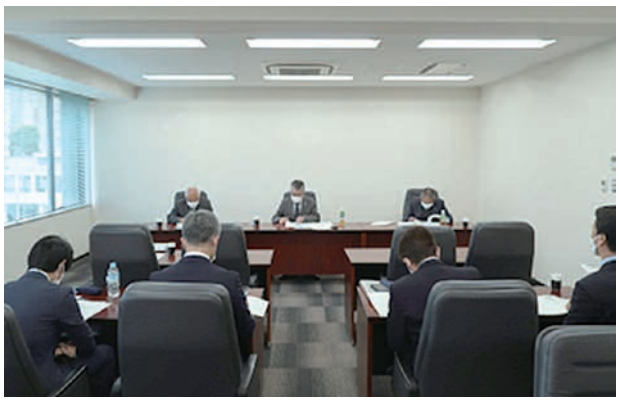
監査項目　(1)　令和４年度受託事業執行状況について

(2)　令和４年度一般会計予算の上半期分執行状況について

第３回監事会

議案第１号　監査結果の処理方法について

定期監査の様子



第３回監事会の様子

第４回監事会

12月12日（月）、第４回監事会を開催し、以下の１議案が上程され、慎重なる審議を行った結果、原案のとおり承認可決されました。

第４回監事会に提出した議案は以下のとおりです。

議案第１号　令和４年度一般会計収入支出補正予算の専決処分に係る承認について

第４回監事会の様子

令和４年度　第１回臨時総会を開催しました

９月２日（金）、まほろばホール（大和町ふれあい文化創造センター）において、第１回臨時総会を開催しました。

当日の臨時総会では、新型コロナウイルス感染症対策として、出席会員22名、欠席する58名の会員については書面議決書で議決権を行使する形式となりました。

伊藤会長の開会挨拶

臨時総会の様子

伊藤康志会長より、「本総会は新型コロナウイルス感染症の対策として規模を縮小し開催する運びとなった。例年、多くのご来賓をお迎えし挙行しているがご理解を賜りたい。８月31日に発表された令和５年度の概算要求の総額は6,713億円で、昨年度より116%アップで要求されている。年末の閣議決定で減らされることのないよう皆様と共に要請活動を続けていきたい。」と開会に際し挨拶を行いました。

議事では、名取土地改良区の今野慶一理事長が議長に選任され、議案第１号 銓衡委員の選任及び役員の補欠選任についての１議案が上程され、各支部より推薦を受け選任された計８名の銓衡委員が審議した結果、役員候補者３名が氏家敏銓衡委員長（江合川沿岸土地改良区理事長）より報告され、報告どおり承認されました。最後に佐藤稔副会長より閉会の挨拶を述べ、総会の一切を終了しました。

本総会の提出議案及び新たに役員に選任された方々は次のとおりです。

議案第１号　銓衡委員の選任及び役員の補欠選任について

新たに役員に選任された会員を代表する理事（３名）（任期は令和４年９月２日から令和５年８月22日まで）

大河原支部	川崎町土地改良区　理事長	丹　野　國　義
	柴田町土地改良区　理事長	加　納　厚　志
東　部　支　部	登米吉田土地改良区　理事長	加　藤　惣　吉

丹野　國義 理事
（川崎町土地改良区理事長）

加納　厚志 理事
（柴田町土地改良区理事長）

加藤　惣吉 理事
（登米吉田土地改良区理事長）

「農業農村整備の集い」が開催されました

10月20日（木）、東京都千代田区の砂防会館別館「シェーンバッハ･サボー」において、全国土地改良事業団体連合会主催による「農業農村整備の集い －農を守り、地方を創る予算の確保に向けて－」が、全国から農業農村整備事業関係者約800名、国会議員約150名の参加のもと開催され、本県からも佐藤稔副会長をはじめ16名が参加しました。

はじめに、全国土地改良事業団体連合会の二階俊博会長より、土地改良団体が団結して要請していくようお願いする旨挨拶されました。

次に、感謝状の授与が行われ、続いて藤木眞也農林水産大臣政務官、全国水土里ネット会長会議顧問の進藤金日子参議院議員など、７名の方々から祝辞が述べられました。

要請文提案では、「燃料価格や電気料金の高騰、令和４年７月及び８月の豪雨災害」などの問題にも言及し、「闘う土地改良」のスローガンの下、予算の安定的な確保などの９項目を国に要請する内容を採択しました。

また、胆沢平野土地改良区の及川正和理事長より、「女性理事の登用について」の事例発表、全国水土里ネット会長会議顧問の宮崎雅夫参議院議員から情勢報告などが行われました。

最後に、沖縄県土地改良事業団体連合会の知念武副会長によるガンバロウ三唱で終了しました。

集いの様子

進藤金日子会長会議顧問

宮崎雅夫会長会議顧問

ガンバロウ三唱

農業農村整備関係予算の確保に関する要請活動が実施されました

10月20日（木）及び21日（金）の両日、本会及び東北･北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会による要請活動が下記のとおり実施されました。

月　　日	要　　請　　先
10月20日（木）	農林水産省　農村振興局へ要請（本会　主催） ・安部農村振興局次長、青山整備部長と面会（意見交換） ・各課室長へ表敬訪問 参加者：本会理事、宮城県、事務局
	農業農村整備事業推進の意見交換会（本会　主催） 参加者：関係国会議員、農水省幹部、宮城県、本会役員・事務局
10月21日（金）	要請活動①（東北・北海道土地連連絡協議会　主催） 要請先：農林水産省、財務省、復興庁 要請者：佐藤副会長、浅野専務理事、事務局、他道県土連関係者
	要請活動②（全土連、土連協、本会　共催） 要請先：県選出国会議員（衆・参議院議員会館） 要請者：東北・北海道土地連連絡協議会、全土連 参加者：菅原副会長、本会理事、宮城県、事務局

本会からは佐藤稔副会長、菅原勘一副会長のほか理事と事務局の16名が参加しました。

農林水産省・財務省・復興庁の大臣、副大臣及び幹部職員、関係国会議員に対し農業農村整備関係予算の確保に関する要請内容を説明しました。

農業農村整備事業推進の意見交換会の様子

勝俣孝明農林水産副大臣へ要請書手交

令和４年度　宮城県土地改良大会を開催しました

９月２日（金）、大和町の「まほろばホール（大和町ふれあい文化創造センター）」において、県選出の国会議員、県内の土地改良関係者600名を超える参集のもと、令和４年度宮城県土地改良大会を開催しました。

本大会は、新型コロナウイルス感染症や深刻化するウクライナ情勢等の影響による電力料金、燃料や資材、肥料等の急激な高騰、さらには、近年の気候変動による豪雨災害の頻発が農業経営及び土地改良区の運営に大きな打撃を与えていることを踏まえ、農業農村整備事業の役割や重要性及び今後の進むべき方向を再確認し、必要な予算確保など事業の着実な推進に向け、県内の土地改良関係者一堂の意思統一を図ることを目的として開催しています。

当日はオープニングに農業農村整備事業に関する動画を放映し、本会会長である伊藤康志会長（大崎市長）の開会挨拶の後、土地改良功労者表彰が行われ、本表彰では、役員の部４名、職員の部１名に対して伊藤康志会長より表彰状が授与されました。

開会挨拶（伊藤康志会長）

大会の様子

～　令和４年度　宮城県土地改良大会 表彰の方々　～

1. 優良団体の部表彰

該当なし

2. 土地改良功労者　役員の部表彰（４名）

支部名	功　労　概　要　等	役　　職　　名	氏　　名
仙　台	永年勤続功労（18年９ヶ月）	仙台市岩切土地改良区　副理事長	吉田　正憲
	永年勤続功労（15年）	亘理土地改良区　副理事長	渡辺　成寿
	永年勤続功労（15年１ヶ月）	亘理土地改良区　理事	阿部　賢一
東　部	永年勤続功労（15年８ヶ月）	石巻市北方土地改良区　理事	三浦　尊徳

3. 土地改良功労者　職員の部表彰（１名）

支部名	功　労　概　要　等	役　　職　　名	氏　　名
東　部	永年勤続功労（25年）	石巻市北方土地改良区　事業課長補佐	阿部　守克

続いて、来賓としてご臨席いただいた坂本修東北農政局長、村井嘉浩宮城県知事（遠藤副知事代理）、菊地恵一宮城県議会議長、小野寺五典衆議院議員、伊藤信太郎衆議院議員、鎌田さゆり衆議院議員、岡本章子衆議院議員、庄子賢一衆議院議員、櫻井充参議院議員、石垣のりこ参議院議員、進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員、和田政宗参議院議員から祝辞を頂戴しました。

また、大会では、基調講演及び事例報告があり、佐藤稔副会長（仙台東土地改良区理事長）による大会宣言の朗読、菅原勘一副会長（大崎土地改良区理事長）の閉会挨拶及びガンバロウ三唱の発声により大会の一切が終了しました。

来賓祝辞（坂本修東北農政局長）

来賓祝辞（小野寺五典衆議院議員）

基調講演の演題及び講師、事例報告の演題及び報告者、大会宣言は以下のとおりです。

【基調講演】　『食料・農業・農村政策の課題と展開方向』～食料安全保障を見据えた政策転換を～

一般財団法人 食品産業センター　理事長　荒川　隆　氏

（元 農林水産省大臣官房長　農林水産省農村振興局長）

【事例報告】　『土地改良団体における男女共同参画の推進について』

農林水産省東北農政局農村振興部土地改良管理課　課長　村上　豊　氏

基調講演（荒川隆理事長）

事例報告（村上豊課長）

大会宣言（佐藤稔副会長）

閉会・ガンバロウ三唱（菅原勘一副会長）

大 会 宣 言

我が県の農業・農村では、急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、農地・農業水利施設の管理や営農の継続が深刻化しているほか、令和元年東日本台風、今年７月の大雨等に代表されるよう頻発化する大規模自然災害など、喫緊の課題を抱えている。さらに、食料需給に大きな影響を与えている新型コロナウイルス感染症は未だ終息が見えず、加えてウクライナ紛争等の影響により、電力料金を始めとし、燃料、資材、肥料等が急激に高騰し、農業経営及び土地改良区の運営は大きな打撃を受けるなど、食料安全保障の強化が求められている。

このような状況の中、豊かなみやぎの食と農の未来を共に創っていく力を強化することを掲げた「第３期みやぎ食と農の県民条例基本計画」の着実な推進に向けて取り組む必要がある。また、新型コロナウイルス感染症の影響を教訓とし、農村地域の価値が改めて高く評価されているとともに、防災重点農業用ため池の耐震化や田んぼダムなど流域治水の推進に伴う農村地域の国土強靱化が重要な課題となっており、関係機関の連携を図りながら積極的な推進が求められている。

さらに、近年気候変動による豪雨災害が全国各地で頻発している中、災害防止対策に大きく寄与している農地や農業水利施設は、国土強靭化の面からもその重要性は増しているにも関わらず、劣化・老朽化が進み、加えて昨今の電気料金や燃料価格等の急激な高騰による厳しい土地改良区運営など、農業者は大きな不安を抱えながらの施設の保全管理を強いられている。

このような中にあっても、我々は活力ある農業・農村の実現と食料供給力の強化のため積極的に貢献するとともに、先人たちが心血を注いで造りあげてきた貴重な資産を適切に管理し、次世代に引き継いでいく責務があり、この責務を確実に遂行するためには必要な予算の確保が最重要課題である。

土地改良関係予算は令和３年度補正と令和４年度当初を合わせて大幅削減前の水準に回復したものの、現場のニーズに適切に対応し計画的・安定的な事業推進のためには、年度当初予算の所要額の確保が必要不可欠である。このため、沿岸部と内陸部の均衡ある県土の発展に向けて、農業農村整備事業予算の十分な確保を図るべく、我々は決して緩むことなく一致団結して闘い続けなければならない。

以上、本大会の総意に基づきここに宣言する。

令和４年９月２日

令和４年度　宮城県土地改良大会

第44回全国土地改良大会沖縄大会が開催されました

11月22日、**「水土里の拓くみるく世を　鳴らしとぅゆまし守禮の邦から」**をテーマに、「第44回全国土地改良大会沖縄大会」が土地改良関係者約2,300名参加のもと、沖縄県沖縄市で開催されました。

全国土地改良大会は、農業農村整備事業の着実な推進に向け、事業の重要性や将来進むべき方向を発信することを目的に毎年度開催され、今年度は復帰50周年の節目となる沖縄県において開催されました。

開催地である水土里ネット沖縄の古謝景春会長、主催者を代表して全国水土里ネットの二階俊博会長が挨拶を述べました。

大会会場の様子

また、沖縄県の玉城デニー知事、沖縄市の桑江朝千夫市長より歓迎の言葉をいただきました。さらに、来賓の勝俣孝明農林水産副大臣、全国水土里ネット会長会議顧問の進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員より祝辞をいただきました。

開会挨拶（古謝景春水土里ネット沖縄会長）

主催者挨拶（二階俊博全国水土里ネット会長）

式典では、長年にわたり土地改良事業にご尽力された方々の功績を讃えて表彰式が行われ、本県からは樋口俊彦氏（蔵王町土地改良区理事長）が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。

続いて、農林水産省農村振興局安部伸治農村振興局次長より「夢（いみ）をつなぐ土地改良」と題して基調講演が行われました。

最後に、第45回全国土地改良大会次期開催県の水土里ネット福井に大会旗の引継ぎが行われ、式典の一切が終了しました。

全国土地改良事業団体連合会長表彰
蔵王町土地改良区　理事長　樋口　俊彦 様

大会旗引継ぎ

令和４年度　水土里ネットみやぎ
各支部各種研修会が開催されました

■ 大河原支部

役職員研修会

11月10日（木）・11日（金）、秋田県男鹿市五里合土地改良区において、大河原支部内６土地改良区12名参加のもと、大河原支部役職員研修会を開催しました。

女子職員研修会

11月30日（水）、福島県戸ノ口堰土地改良区、会津若松市湊土地改良区において、大河原支部内６土地改良区16名参加のもと、大河原支部女子職員研修会を開催しました。

■ 仙台支部

役職員研修会

10月27日（木）・28日（金）、北海道北斗市渡島平野土地改良区において、仙台支部内13土地改良区26名参加のもと、仙台支部役職員研修会を開催しました。

女子職員研修会

11月２日（水）、岩手県鹿妻穴堰土地改良区において、仙台支部内10土地改良区22名参加のもと、仙台支部女子職員研修会を開催しました。

北部支部

役職員研修会

12月13日（火）·14日（水）、栃木県那須野ヶ原土地改良区連合において、北部支部土地改良区22名参加のもと、北部支部役職員研修会を開催しました。

女子職員研修会

11月25日（金）、旧荒浜小学校において、県内土地改良区22名参加のもと、北部支部女子職員研修会を開催しました。

東部支部

役職員研修会

７月10日（日）～15日（金）、北海道厚真町土地改良区、篠津中央土地改良区、(有)大塚農場において、東部支部15土地改良区20名参加のもと、東部支部役職員研修会を開催しました。

女子職員研修会

10月19日（水）、山形県米沢平野土地改良区において、東部支部内10土地改良区30名参加のもと、東部支部女子職員研修会を開催しました。

宮城県中山間地域活性化推進協議会 担当者研修会を開催しました

11月15日（火）、伊具郡丸森町「筆甫まちづくりセンター」において、会員市町及び宮城県農政部農山漁村なりわい課等関係団体16名参加のもと、担当者研修会を開催しました。今年度は３年ぶりの開催となりましたが、実践事例を用いた中山間地域の課題の活かし方や開催地である筆甫地域での取り組みについて講演をいただきました。

研　修　内　容	講　　師　　名
中山間地の課題を活かしてムラをにぎやかに！	農山漁村文化協会東北支部　支部長　橋本康範
持続可能な中山間地のあり方をめざして	筆甫地区振興連絡協議会　事務局長　吉澤武志

研修会の様子

吉澤事務局長の講演

ひっぽのお店“ふでいち”見学

若手職員研修会を開催しました

12月１日（木）～２日（金）の両日、大崎市鳴子温泉「鳴子観光ホテル」において県内18土地改良区及び水土里ネット山形より45名の参加のもと、若手職員研修会を開催しました。

同じ業務を行う若手職員が一堂に会し、土地改良区に関する基礎的な知識や近年の農業情勢、接遇やマナーについて研修を行いました。

日　　程	研　修　内　容	講　　師　　名
12月１日（木）	宮城県の農業概要について	水土里ネットみやぎ専務理事　浅野直明
	土地改良区とは	水土里ネットみやぎ総務部広報支援班　高橋　新
12月２日（金）	接遇とコミュニケーション ～適切な業務運営を行うために～	東北コミュニケーション研究所所長　高橋利夫

研修会の様子

接遇とコミュニケーション研修

換地計画実務研修会を開催しました

12月９日（金）、宮城県土地改良会館５階大会議室において、宮城県８名、関係市町村６名、各土地改良区33名、本会12名の計59名参加のもと、換地計画実務研修会を開催しました。

本研修会では、換地事務に従事している職員を対象に、換地事務に関係する法律や実務の基礎に関する講演などが行われました。

研　修　内　容	講　　師　　名
民法・不動産登記法・相続土地国庫帰属法の改正について	官澤綜合法律事務所弁護士　官澤里美
換地業務の実務について（初級編）	異議紛争未然防止啓発資料作成編集委員 勝又俊博
農地中間管理事業の実施状況及び農地集積・集約化を推進する留意点について	みやぎ農業振興公社担い手育成部兼 農村整備部総括次長　板橋武人

研修会の様子

官澤弁護士による講義

勝又編集委員による講義

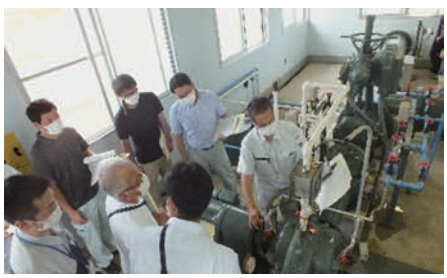
農業水利施設ストックマネジメント研修会を開催しました

８月23日（火）、12月２日（金）の両日、北上川沿岸中田地区土地改良区及び大手口揚水機場において、第１回･第２回農業水利施設ストックマネジメント研修会を開催しました。

本研修会は、土地改良区体制強化事業（基幹水利施設保全管理技術向上研修）において年３回実施する研修会であり、３回目の研修は１回目、２回目の結果を踏まえ、土地改良会館にて機能保全計画書作成の研修会を２月に実施する予定となっております。

	日　　程	研修内容	参加者数
第１回	８月23日（火）	ポンプ稼働時の点検方法	29名
第２回	12月２日（金）	ポンプ分解整備時における点検手法	28名

研修会の様子


ポンプの振動計測

土地改良区職員研修会を開催しました

11月25日（金）、宮城県土地改良会館５階大会議室において、県内33土地改良区から42名の職員の参加のもと、土地改良区職員研修会を下記のとおり開催しました。

本研修会では、令和５年度からの貸借対照表の公表に向け、全国土地改良事業団体連合会支援部の金内主査より今後の財務諸表の作成や財務状況の分析手法について、また、宮城県農政部農村振興課指導班の白鳥主事より第５次土地改良区統合整備基本計画の概要についてご講義いただきました。

研　修　内　容	講　　師　　名
財務諸表等の作成手順について	全国土地改良事業団体連合会 支援部主査　金内琴美
財務諸表等を活用した財務分析の方法	
第５次土地改良区統合整備基本計画について	宮城県農政部農村振興課指導班主事　白鳥正志

研修会の様子

土地改良区役員研修会を開催しました

12月５日（月）～12月６日（火）、12月８日（木）～12月９日（金）の４日間、大崎市鳴子温泉「鳴子観光ホテル」と仙台市太白区秋保町「ホテルニュー水戸屋」において、県内42土地改良区理事、監事131名の参加のもと、土地改良区役員研修会を開催しました。

本研修会は、土地改良区理事及び監事の資質向上を図り、円滑な組織運営並びに基盤強化に資するための情報提供を目的に開催していますが、新型コロナウイルスに感染症より３年ぶりの開催となりました。

研　修　内　容	講　　師　　名
土地改良区の役員の責務等について	東北農政局農村振興部 土地改良管理課 土地改良指導官　真壁　功
東北の今後の農業・農村を考える	一般財団法人 日本水土総合研究所 総括技術監　堀畑正純
水資源機構の水管理について～土地改良区の水管理に向けて～	独立行政法人水資源機構 副理事長　日置秀彦
ハラスメント対策について～規程の整備と被害申出の対応等～	水土里ネットみやぎ総務部 広報支援班 主幹　戸松若菜
新会計基準に基づく土地改良区会計処理等について	宮城県農政部 農村振興課 指導班 主事（副班長）　白鳥正志

研修会の様子

土地改良団体における
男女共同参画推進研修会を開催しました

令和４年11月７日（月）、県内29土地改良区の役職員参加のもと、土地改良団体における男女共同参画推進研修会を開催しました。

本研修会では、土地改良区等における女性理事の割合を令和７年度までに10%以上にするという数値目標が設定された中で、全国土地改良事業団体連合会システム開発部山田部長には、「土地改良団体における男女共同参画の意義、基本事項」と「「土地改良団体における男女共同参画の手引き」の使い方」について、全国で実際に女性理事を登用した土地改良区の事例を交えながら講義をいただきました。「手引きの使い方」の中では、役職員の方に行動計画表へ実際に書き込んでいただき、女性理事登用に向けて何から始めればよいか考える時間となりました。

東北農政局土地改良管理課村上課長には、「土地改良団体における男女共同参画」について、女性理事についての定款への記載例を具体的に挙げていただき、制度的な面でどのように進めていけば良いか、講義をいただきました。

村上課長からは、これからさらにバックアップ体制を強化していき、数値目標の実現に向けて協力していきたい旨の説明がありました。

研　修　内　容	講　師　名
土地改良団体における男女共同参画の意義、基本事項	全国土地改良事業団体連合会 システム開発部　部長　山田　淳
「土地改良団体における男女共同参画の手引き」の使い方	
土地改良団体における男女共同参画	東北農政局農村振興部 土地改良管理課　課長　村上　豊

全国水土里ネット　山田部長の講義

東北農政局　村上課長の講義

研修会の様子

インターンシップ事業を実施しました

本会では、高校生、大学生が在学中に研修的な就業体験を行うことで、職業観の確立や勉学への動機付けの一層の充実を図るとともに、その成果を就職後に能力発揮することで、実社会への適応能力の高い、実践的な人材の育成に繋がることを目的としたインターンシップ（現場実習教育）を実施しています。※令和４年度については、高校生のみの実施となっています。

◆高校からの受入（応募＝小牛田農林高等学校から３名）

実施期間：令和４年10月12日（水）～10月14日（金）の３日間

実　施　日	実施プログラム
10月12日（水）	オリエンテーション、水土里ネットみやぎの概要、農業農村整備事業の概要、農集排についての講義、農業水利施設見学
10月13日（木）	災害現地見学、工事費算出実習（設計図作成、数量計算書作成）
10月14日（金）	工事費算出実習（工事費算出）、トータルステーションの操作実習、換地についての講義、現場実習の総括、OB談話、マナー講習

農業水利施設の見学

工事費算出の指導（CAD実習）

トータルステーションの操作指導

換地についての講義

土地改良区めぐり　登米市東和町土地改良区

シリーズ 40

土地改良区の概要

本地域は、宮城県北東部の登米市東和町に位置し、一級河川北上川左岸沿いと二級河川二股川沿いに展開する中山間地の水田地帯になります。

本改良区は、昭和30年に設立された土地改良区で、平成３年から県営ほ場整備事業大清水地区（31.3ha）、平成８年には浅草地区（81.3ha）、平成10年には米谷地区（68.9ha）、平成17年には青木地区（48.5ha）のほ場整備事業を実施し、農業生産性向上と合理化を図ってきました。

現在は、米川地区（56.1ha）を令和６年農地整備事業採択に向け取り組んでおります。

また、令和５年度から内ノ目地区（30.0ha）の農地整備事業調査が始まる予定です。

今後は、土地改良施設の老朽化に伴い補助事業を導入しながら計画的な施設更新の事業計画が必要と考えております。

県営ほ場整備事業米谷地区

県営ほ場整備事業青木地区

登米市東和町土地改良区

所 在 地：登米市東和町米川字六反55-1

団体表彰：

- 平成６年　全国土地改良事業団体連合会　銅賞
- 平成24年　全国土地改良事業団体連合会　銀賞
- 平成30年　全国土地改良事業団体連合会　金賞

受益面積：416ha

組 合 員：706名　理　　事：10名　監　　事：２名

職　　員：３名

～令和４年　秋の叙勲～

去る11月３日付で、内閣府から令和４年秋の叙勲受章者が発表され、本会関係者では、千葉敏彦氏（元迫川沿岸土地改良区理事長）が土地改良事業功労として旭日双光章を、小野武久氏（元階上大谷土地改良区理事長）が土地改良事業功労として旭日単光章をそれぞれ受章されました。

このたびの受章を心からお慶び申し上げ、益々のご活躍を祈念申し上げます。

旭日双光章

千　葉　敏　彦氏
元迫川沿岸土地改良区理事長

旭日単光章

小　野　武　久氏
元階上大谷土地改良区理事長

～令和４年　文化の日表彰～

宮城県は令和４年文化の日表彰受賞者を発表し、本会関係者では産業功労として佐藤忠良氏（元登米市東和町土地改良区理事長）、関内清一氏（現仙台市岩切土地改良区理事長）、加藤惣吉氏（現登米吉田土地改良区理事長）がそれぞれ受賞されました。

このたびの受賞を心からお慶び申し上げ、益々のご活躍を祈念申し上げます。

産業功労

佐　藤　忠　良氏
元登米市東和町土地改良区理事長

産業功労

関　内　清　一氏
現仙台市岩切土地改良区理事長

産業功労

加　藤　惣　吉氏
現登米吉田土地改良区理事長

連合会日誌

開催日時		主催者名	行事名	開催場所
8月	10日	本会	第2回理事会	大崎市
	22日	東北・北海道連絡協議会	農業農村整備関係予算の確保に関する要請活動	農水省、復興庁、財務省
	23日	本会	第1回農業水利施設ストックマネジメント研修会	北上川沿岸中田地区土地改良区
	31日	東北・北海道連絡協議会	事務主任者会議	Web会議
9月	2日	本会	第1回臨時総会、宮城県土地改良大会（第6回）	大和町まほろばホール（大和町）
	8～9日	本会	換地技術者育成研修会（第2回）	本会館
	11日	本会	職員採用試験	本会館
	14日	全国水土里ネット	都道府県土地改良事業団体連合会等事務責任者会議	Web開催
	15～16日	本会	土地改良換地士技術向上研修	大崎市
	27～29日	東北・北海道連絡協議会	第2回事務責任者会議	北海道・日高町他
10月	4日	東北・北海道連絡協議会	第3回事務責任者会議	本会館
	12～14日	本会	本会インターンシップ（現場実習）	古川事業所
	20日	全国水土里ネット	農業農村整備の集い	シェーバッハ・サボー（東京都）
	21日	全国水土里ネット女性の会	全国水土里ネット女性の会研修会	砂防会館別館（東京都）
11月	4日	本会	第3回監事会、定期監査	本会館
	7日	宮城県土地改良区運営基盤強化協議会 全国水土里ネット	土地改良団体における男女共同参画推進研修会	本会館
	14～15日	東北・北海道連絡協議会	東北・北海道ブロック管理主任者及び専門指導員会議	水土里ネット青森
	15日	宮城県中山間協議会	宮城県中山間地域活性化推進協議会担当者研修会	筆甫まちづくりセンター（丸森町）
	21～24日	全国水土里ネット 水土里ネット沖縄	第44回 全国土地改良大会 沖縄大会	沖縄県沖縄市
	25日	本会	土地改良区職員研修会	本会館
	29～30日	東北・北海道連絡協議会	東北・北海道ブロック会計指導員会議	北海道
12月	1～2日	本会	若手職員研修会	大崎市
	5～6日	本会	役員研修会（北部・東部管内）	鳴子観光ホテル（大崎市）
	8～9日	本会	役員研修会（大河原・仙台管内）	ホテルニュー水戸屋（仙台市）
	9日	本会	換地計画実務研修会	本会館
	12日	本会	第4回監事会、第4回理事会	大崎市
	28日	本会	仕事納め式	本会館

今後の行事予定

1月	4日	本会	仕事始め式	本会館
	26～27日	宮城県・ため池サポートセンター	ため池保全協議会及びため池管理技術研修会	古川事業所
2月	中旬	本会	第10回みやぎのふるさと農美里フォトコンテスト審査会	本会館
	中旬	本会	第5回理事会、第5回監事会	本会館
3月	中旬	本会	第6回理事会、第64回通常総会	本会館

ため池を管理されている方へ

宮城県ため池サポートセンター

専門のスタッフが
ため池の管理・保全に関する
相談を承ります

～ ため池管理者の方の相談窓口 ～

- **受付日時**
  毎週 火・木 曜日 9:00~12:00/ 13:00~16:00
  ※祝日,休日,年末年始（12月29日~翌年1月3日）は除く
- **相談方法**
  電話または来所（来所の場合，要予約）
- **連絡先**
  022-263-5814（総務部会員支援班内）
  ※管理者以外の方は、お住いの市町村へご相談願います

業務内容（相談以外）

✓ **専門技術者による助言**
防災重点農業用ため池の適切な管理等のための助言を行います。

✓ **研修会の開催**
ため池管理者の技術力向上に向けた研修会を開催します。

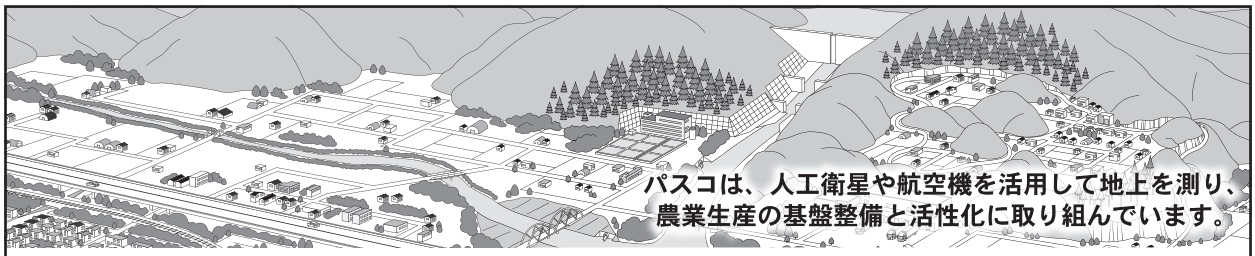
ため池サポートセンターウェブサイトを開設しました！

ため池での事故防止啓発グッズや注意喚起動画の紹介、ため池工事に係る最新技術情報等を発信しています。

https://tameike.miyagi.jp

スマートフォンでも
閲覧可能です！！

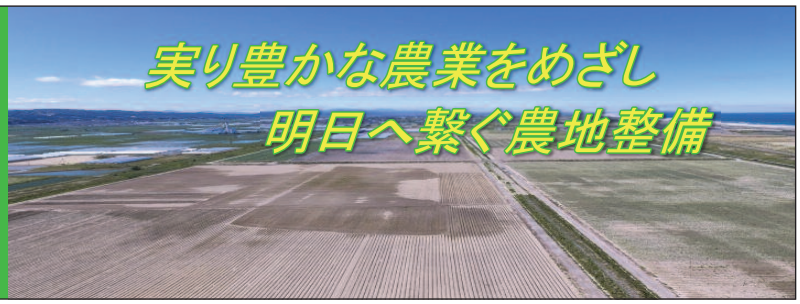
宮城県ため池サポートセンター
【所在地】〒９８０―００１１　仙台市青葉区上杉２丁目２番８号
【連絡先】電話：０２２－２６３－５８１４／ファックス：０２２－２６８－６３９０
【設置者】宮城県　【運営主体】宮城県土地改良事業団体連合会（水土里ネットみやぎ）



株式会社パスコ　仙台支店　〒983-0864 宮城県仙台市宮城野区名掛丁 205-1　www.pasco.co.jp

株式会社同和建材
〒９８９－６１２４
宮城県大崎市古川石森字天王山２－１
電話　０２２９－２４－２７５５
メール　dowa-2755@athena.ocn.ne.jp

☆　農業土木資材販売
☆　各種２次製品販売



お陰様で弊社は創業75周年を迎えました。
今後とも地域の発展に寄与し、お客様に御満足頂けますよう、設計･施工・メンテナンスまで一貫した体制で、より一層の努力を重ねてまいります。

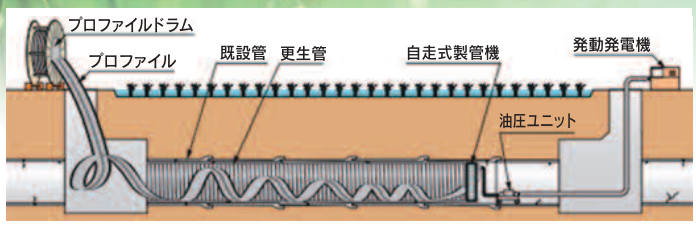
水処理総合エンジニアリング
萱場工業株式会社

本　　社：宮城県仙台市青葉区葉山町1番26号
T　E　L：０２２－２７２－８６８６
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.kayaba-ind.co.jp
支店営業所：福島、郡山、青森、秋田、盛岡
石巻、大崎

農業用パイプライン更生工法

SPR-A工法

SPR-A工法の自走式



既設管：800 ～ 5,000㎜　　円形、矩形、馬蹄型など

特長

- 作業に支障のない水量なら通水しながら施工可能
- 5,000㎜の大口径にも対応
- 開口部（600㎜程度）があれば、機材や資材の搬入が可能なため、開削が不要
- 新管と同等以上の管路（強度・流量）に復元

日本SPR工法協会 東北支部 〒989-3124 仙台市青葉区上愛子字車39-3 TEL・FAX 022（392）5981

日本SPR工法協会 TEL 03（5209）0130㈹　ホームページ http://www.spr.gr.jp/　SPR工法

ウェブサイトはこちら！
http://www.mlw.or.jp
過去の広報誌もご覧いただけます

●発　　行　2023年1月1日
●発 行 所　水土里ネットみやぎ（宮城県土地改良事業団体連合会）
〒980－0011　仙台市青葉区上杉二丁目２番８号
Tel 022-263-5811（代表）／Fax 022-268-6390
●印　　刷　株式会社 イシカワ印刷
〒983－0044　仙台市宮城野区宮千代一丁目24－９
Tel 022-238-0999／Fax 022-235-9035